

終刊によせて

本誌「長崎ウエスレヤン短期大学 地域総合研究所 研究所報」は、今回の第11号を刊行することで、区切りを迎えることとなりました。2002年4月より、短期大学から4年制大学へ改組するため、短期大学の地域総合研究所はその役目を終え、4年制大学の地域総合研究所に受け継がれていくことになるからです。

想えば、1993年にそれまでのアジア経済研究所、社会福祉研究所、宗教研究所が総合し、この地域総合研究所が設置されました。その目的は、規約にも謳われていますように、「ひろく自然環境から社会的・文化的諸関係にいたる学際的な領域に基礎をおき、国内外の諸地域に関する構造や機能について研究する」立場から、学内外の研究者とともに様々な活動をおこなってきました。

なかでも、「研究所報」は、1994年3月に創刊号を発刊し、時には、特集を組み、学外からの投稿も頂きながら、この第11号まで刊行し、掲載論文等延べ73編を大学・研究所関係機関を中心に公表してまいりました。発刊当初は、紀要がすでに刊行されていることから、本学のような小規模の短期大学で研究成果の発表の場を2つ持つのは無理があり、掲載論文が集まらないのではという不安もありましたが、約7編前後の論文等の掲載を持って発刊が続けられることができました。これも、研究所員の研究への情熱と学外の方々のご協力によるものと感謝しております

また、地域総合研究所としての調査研究活動が、4年制大学の申請書にありますように、現代社会学部福祉コミュニティ学科の研究的先駆けとなってきたこともあり、今後も4年制大学における地域総合研究所として、さらなる研究の充実と向上に寄与されること、これからも「研究所報」を研究の研鑽の場として、広く学内外の研究者の交流の場として発展していかれることを期待しております。

最後に、これまでにご協力やご理解を賜りました関係者および部局の方々に感謝の意を表します。

2002年3月28日

地域総合研究所

所長 佐藤 快信